幸福を、平和を、豊かな心を、カンボジアの友と分かち合おう

Angkor Wat

アンコールワット

発行日：2025年（令和7年）9月1日　会報 第141号

特定非営利活動法人（NPO法人）
21世紀のカンボジアを支援する会
《AAC21》ASSOCIATION OF AID FOR CAMBODIA IN 21 CENTURY
【本部事務局】〒369-1246　埼玉県深谷市小前田1552-1
TEL 048-580-7048　FAX 048-580-7049
E-mail info@aac21.net
【カンボジア事務所】Royal park condo,Street 608, Toul kok, Phnompenh,Cambodia
(855) 17-599-707
【ホームページ】カンボジア支援 検索
【公式ブログ】メコンの風に吹かれて 検索

シンガポール訪問記

マリーナ・ベイサンズホテルをバックに(右が五井さん、左が島田さん)

4月9日～11日、カンボジア滞在中にシンガポールを訪問しました。27年ぶりの訪問でした。

カンボジアから南へ飛行機で約2時間、マレー半島の最南端に位置する都市国家、シンガポールは大小15の島々で構成されています。赤道直下なので一年中暑いのですが、私が訪ねた4月は比較的涼しく、季節により多少の気温差があるようです。

会員の島田さん（旧姓岡本）がご主人の勤めの関係でシンガポールに住んでいて、このチャンスに会員の五井さんと2人で訪問しました。宿泊はカールトンホテル、少々お高いですが快適な3日間でした。

島田さんが懇切丁寧にシンガポールの街を案内してくれました。実質2日間の短期旅行なので、電車やバスは使わずもっぱらタクシーアプリを使いました。

シンガポールは1965年にマレーシアから分離独立、人口は600万人程度ですが、アジアにおけるコンテナ基地と金融の中心であり、1人当たりGDPも世界2位でASEANの中でもトップクラスの先進国です。中華系住民が半数位ですが、公用語は英語、中国語、タミル語。

シンガポールの印象は、まず街がきれいなこと。勿論ポイ捨てには罰金が課され、犯罪にも厳しい罰が課されるため治安は良さそうです。そこは日本と似ており、夜は一人歩きが危険なカンボジアとは対照的です。

人々はフレンドリーで、気軽に声をかけてくれます。ただし日本語は全く通じないので、片言でも英語は必須です。円や米ドルは使えず、シンガポールドルのみ。もっともカードが使えるので、現金を所持しなくてもOKです。

滞在中、シンガポールの南端にある「セントーサ島」に足を運びました。1942年の2月、太平洋戦争初期の「シンガポールの戦い」で大日本帝国陸軍がイギリス軍を中心とする連合軍と交戦、イギリス軍が降伏し、終戦の1945年8月まで日本軍がシンガポールを軍事占領しました。

戦闘終了後、交渉を行う日本軍の山下司令官とイギリス軍のパーシバル司令官の様子がレプリカではありますが、記念館に再現されていました。この他当時の貴重な資料が数多く展示されていて、歴史好きな私にとってあらためて学習する機会が与えられ、至福のひとときでした。

シンガポールの観光名所と言えば「マーライオン」と屋上に船がある「マリーナ・ベイサンズホテル」。ここは何しても写真に収めておきたい観光スポットです。

訪問最後の日は早朝のフライトで一旦カンボジアへ戻り、2日後に日本へ帰国しました。

シンガポールからカンボジアに着いた時、ふと安堵感を覚えました。シンガポールとカンボジアは比較にならないほど国力が違います。カンボジアは経済成長したとは言え、シンガポールの足元にも及びません。治安も悪く、相変わらずゴミが散らかっています。（以前より改善されましたが）そんなカンボジアが、私の性分に合うのかもしれません。

NPO法人 21世紀のカンボジアを支援する会　理事長　根岸恒次

「カンボジアフェスティバル2025」に出店しました

５月３日～４日、東京都内の「代々木公園イベント広場」で開催された「カンボジアフェスティバル２０２５」に今年も出店した。ゴールデンウィークで天気も良く、大勢の来場者でにぎわった。

本会のテント内に並べられたカンボジア製のスカーフ、ティーシャツ、クロマーなどは２日間でほとんどが売り切れた。特に今回は、売り子ボランティアの会員さんがカンボジアのマーケットで直接仕入れたもの。お客様が好む製品の種類や色柄を選んで仕入れたのが、功を奏した。

今回も多くの会員さんがボランティアで販売や広報のお手伝いをしてくれた。

ステージではカンボジア古典舞踊「アプサラ」などが披露され、カンボジア料理などの出店も盛況だった。

来年は記念の10回目になるとのこと、来年１月～２月にカンボジアを訪問する予定なので、来場者に喜ばれる製品をたくさん仕入れたい。

お手伝いしてくれた会員の皆さん(3日)

買い物でにぎわうテント前

第23回　定期総会を開催

６月28日（土）午後１時～２時半、第23回定期総会をZoomオンラインで開催、６名の会員が出席した。

返信はがきで委任された方、表決権を行使された方が122名になり、会員総数（224名）の過半数を超えたので、総会は適法に成立した。

審議内容は、昨年度の事業報告と決算報告、今年度の活動計画と予算案の２件、全員意義なく承認された。

この他雑件として本会の運営に関わる事案を審議、概ね承認された。定期総会資料、及び総会議事録を本会のホームページに掲載したので、ご覧頂きたい。

総会に出席した会員(一部)

カンボジアの子どもたちをサポートしてください

里親さんありがとう

クメール教育里親会員募集

長かった内戦が終わって平和になったカンボジアですが、国の復興はなかなか進まず、多くの人々は貧困に苦しんでいます。特に農村では、貧しかったり親を亡くしたりして学校へすら行けない子どもや、学校へ行けても途中でやめてしまう子どもが後を断ちません。

本会では、農村の子どもたちが学校へ行けるようにと、教育資金をサポートしてくれる里親さんを募集しております。

思えば 80 年前、敗戦して焦土となった日本を救ってくれたのは、諸外国からの援助でした。カンボジアも食料援助をしてくれました。日本の子どもたちもその恩恵を受け学校に行けるようになりました。豊かになった私たちが、今度は困っているアジアの子どもたちを支援する番です。

※お友達グループや職場など、グループ単位でサポートしていただくこともできます。

【教育里親会費】 子ども1人につき 1年間3万円。
（活動のための諸費用含む）

・子どもへの直接支援額を高めるよう努力しております。
・一括納入、分割納入（毎月、年2回）のどちらも可。
所定の郵便振替用紙を使いお振込みください。

【支援する期間】・少なくとも子どもが学校を卒業するまでの間、支援して頂けたら幸いです。やむを得ず子どもが中退する場合もありますが、その際は別な子どもの支援をお願い申し上げます。

【子どもとの交流】・子どもからは概ね6ヶ月に1度、近況を報告する手紙（日本語に翻訳）と写真が届きます。
・里親から手紙、プレゼントを届けることができます。
（子どもから写真とお礼の手紙が届きます）

Facebook に本会の活動を随時投稿しています

教育支援をお願いします！

「クメール教育里親基金」では、教育支援を希望するカンボジアの子どもたちを、会報紙面で紹介いたします。支援してくださる方は、子どもの名前を添えて、事務局までご一報ください。

（先に里親が確定する場合がありますので、ご承知ください）

また、既に里子をお持ちの方も歓迎いたします。顔の見えるマン・ツー・マンの教育支援です。

☎048・580・7048　FAX 048・580・7049

キム・スレイケオちゃん（女の子）

エミ小学校
（コンポンスプー州オラル郡）
1年生（7歳）

●両親離婚。兄が1人いる。現在祖父祖母、兄と暮らす。
●好きなこと＝本を読むこと。
●学校まで徒歩で20分。

テューン・ラッケナーちゃん（女の子）

エミ小学校
（コンポンスプー州オラル郡）
1年生（7歳）

●両親離婚、母親のみ。兄弟姉妹なし。現在母親、祖母と暮らす。
●好きなこと＝絵を描くこと。
●学校まで徒歩で20分。

チェット・ニターちゃん（女の子）

エミ小学校
（コンポンスプー州オラル郡）
1年生（6歳）

●母親死亡、父親のみ（別居）。兄弟姉妹なし。現在祖母と暮らす。
●好きなこと＝絵を描くこと。
●学校まで徒歩で30分。

キム・スレイピッチちゃん（女の子）

エミ小学校
（コンポンスプー州オラル郡）
1年生（6歳）

●両親がいる。妹が1人いる。現在両親、妹と暮らす。
●好きなこと＝本を読むこと。
●学校まで徒歩で30分。

ピアック・ソムナンちゃん（女の子）

エミ小学校
（コンポンスプー州オラル郡）
1年生（6歳）

●母親死亡、父親のみ（別居）。姉が1人いる。現在祖母、姉と暮らす。
●好きなこと＝縄跳びをすること。
●学校まで徒歩で30分。

クルム・ワンナスレイケーちゃん（女の子）

エミ小学校
（コンポンスプー州オラル郡）
1年生（6歳）

●両親がいる。姉が2人いる。現在両親、姉と暮らす。
●好きなこと＝勉強をすること。
●学校まで徒歩で40分。

ボランティアで会報発送のお手伝い

6月8日（日）、埼玉県と群馬県にお住いの会員さん6人が事務局に集まり、7月1日付会報（140号）の封入作業を手伝ってくれた。翌日には地元の郵便局から全国の会員に郵送を済ませることができた。

作業終了後、皆さんが持ち寄ってくれた昼食を食べながら楽しい懇親会を行った。

これからも会員相互の親睦交流を兼ね発送作業を行うので、お手伝いできる方は事務局にご一報を。（駐車場あり）

作業後は楽しいランチ会

5つの小学校に遊具と井戸を寄贈

回転遊具で遊ぶ「平和小学校」の生徒たち

滑り台で遊ぶ「サンポウミヤス小学校」の生徒たち

完成した井戸の前で記念撮影

完成した井戸水で手を洗う生徒たち

きれいな井戸水で顔を洗う生徒たち

水道がない地方では雨水や池の水をカメに入れて暮らす

▶ **6月17日、**現地スタッフが「平和小学校」（コンポンスプー州・生徒数＝245人）を訪問、角田由美子さん（東京都在住の会員）が寄贈した遊具の贈呈式を行った。同校には2006年、角田さんのご主人（故人）が5教室仕立ての校舎を寄贈、今年の1月には角田さんが19年ぶりに同行を訪問、生徒全員に学用品を寄贈した。

▶ **6月19日、**現地スタッフが「サンポウミヤス小学校」（プレイベーン州・生徒数＝551人）を訪問、角田由美子さんが寄贈した遊具の贈呈式を行った。同校には2003年、角田さんが5教室仕立ての校舎を寄贈、今年の1月には角田さんが22年ぶりに同行を訪問、生徒全員に学用品を寄贈した。

▶ **6月20日、**現地スタッフが「ピートヌー小学校」（クラチェ州・生徒数＝440人）を訪問、「カンボジア教育支援西予」（代表＝広瀬稔さん・愛媛県在住の会員）と西口工務店（愛媛県西予市）が寄贈した井戸の贈呈式を行った。「西予ＣＡＴＶ」が協力してくれた。

▶ **6月20日、**現地スタッフが「トモハールヴィル小学校」（クラチェ州・生徒数＝259人）を訪問、「サンライズ電設株式会社（代表取締役＝平居幸史さん・東京都在住）が寄贈した井戸の贈呈式を行った。2021年に続き2基目の寄贈だった。

▶ **6月20日、**現地スタッフが「トロパンラックタメイ小学校」（クラチェ州・生徒数＝208人）を訪問、「北海道札幌手稲高等学校家庭クラブ」（札幌市の会員）が寄贈した井戸の贈呈式を行った。2019年に続き久々の寄贈。

カンボジアでは都市から離れた僻村に水道がなく、水源は川や池の水（又は雨水）に依存しています。
幸い、地中30メートルの井戸を掘ればきれいな水が確保できるので、皆様からのご支援をお待ちしています。遠い将来、僻村にも水道が敷設されることを夢見て。

ウオッチ　カンボジア

いつ見てもきれいな蓮の花

カンボジアと言えばやはり蓮の花、道ばたの池に咲く蓮の花は心を和ませてくれる。季節感のないカンボジアでは、いつ訪れても咲いている印象がある。

壮大なゴム園

同じくクラチェ州や隣りのトゥボンクモム州に行くと、壮大なゴム園をよく見かける。ゴム園に囲まれた道路を30分走っても延々と続いている。お椀のようなカップに白い樹液を集めるそうで、カンボジアの大きな収入源になっている。

田舎では象さんが活躍

プノンペンから車で6時間かかるクラチェ州で、荷物を運んでいる象を見かけた。聞くとこの地方では、牛や馬と同じように象を飼っている農家があるそうだ。

クメール教育里親基金活動レポート

本会では、病気や事故、親の離婚などにより両親や片親をなくしたり、親がいても貧しい家庭環境にあるカンボジアの子どもたちが安心して学ぶことができるよう、２００３年に「クメール教育里親基金」を創設、現在２００人（６月末日現在）の子どもたちを教育支援している。

今年から奨学金配布を年６回⇨４回に変更（３月・６月・９月・12月）、教育里子への支援金額を、教育里親年会費の45％に当たる１３、５００円にアップした。３ヶ月に１回の支援金額＝22・５ドル（現地通貨で９万リエル）（１ドル＝１５０円程度で換算）。

６月９日～14日、現地スタッフ（２人）が25の支援校を回り、里子たちに奨学金や教育里親からのプレゼントを届けた。

写真＝右から
- ピア・ラタナック君（里親は辻さん）
- ブロック・パッルリー君（里親は佐々木さん）
- ルットナリヤーちゃん（里親は枇川さん）
- ニー・スレイニッチちゃん（里親は園田さん）
- カーン・カニカーちゃん（里親は杉田さん）
- スン・ソパニットちゃん（里親は蔡さん）
- エム・ソパニー君（里親は加藤さん）
- リアン・ソピアルット君（里親は三上さん）
- ムーン・ニシン君（里親は大桃さん）

（アンミンチェイ小学校に在学。ピア・ラタナック君とブロック・パッルリー君はチュレイホープナヴ高校に在学）

里子へのプレゼントは随時受け付けています

- 国内では円安、現地カンボジアにおきましては物価が高騰しておりますので、やむを得ず里子へのプレゼント代を下記の通りに値上げさせていただきます。どうぞご理解のほど、よろしくお願い申し上げます。
- 事務局に届いた里子プレゼントにつきましては、年に1～２回程度になりますが、空港から持参させて頂きます。暫くお時間を頂きますので、なるべく海外送金可能な現金をお送りください。

現地購入品目一覧表

自転車（中古品）	９,５００円
お米（50キロ入り）	５,５００円
通学用カバン	３,５００円
サッカーボール	３,０００円
ティシャツ２枚＆サンダルセット	２,５００円
お菓子セット（お菓子の詰め合わせ）	１,５００円
文房具セット（ノート、筆記用具類）	１,５００円

※同封の振込票にてご送金をお願いいたします。

現地スタッフが里子に奨学金（教育支援金）を届けています

現地カンボジアでは、教育里子が通学する小学校（現在25校）を現地スタッフが３ヶ月に一回のペースで訪問、教育里親より頂戴した年会費の中から４回に分け、カンボジア通貨（リエル）に換金して奨学金を届けている。

中学校、高等学校に通う教育里子も卒業した小学校に集まり、奨学金を受け取っている。

６月９日～14日の間に２人の現地スタッフ（ドライバー含む）が各小学校を訪問し、奨学金と教育里親からのプレゼントを届けた。

奨学金を届けました

投稿　カンボジアの中華街

青木 貴之（KHJグループ総務）

カンボジアには幾つか中華街があります。昔からいる華僑の人々ではなく、割と最近やって来たカンボジア語が話せない人たちが、たくさん住んでいる地域です。

そこには中華レストランがたくさんあり、美味しく高くもなく、ある程度綺麗な店なのでよく利用しています。

カンボジアの中華街

基本は中国人のお客さんしかいないので、日本人が入ると店に戦慄が走りますが、「ニーハオ」、「シェイシェイ」だけ喋れれば歓迎されます。

メニューは中国語だけのところが多いですが、最近はグーグルレンズというスマホアプリでメニューを写真に撮れば、自動的に文字を翻訳してくれるので困ることはありません。

床屋も多くあり、利用してみると面白いです。私はいつもグーグル翻訳で「中国の流行の髪型、あなたに任せます」とお願いしています。中国人の理容師がかっこよく切ってくれますが、先日はまさかの北の将軍様の髪型になってしまいました。

（カンボジア在住・KHJグループ総務）

投稿　いただきます

今　紀子（東京都在住　会員）

友人達からお米をいただいた。こんなにたくさん、食べられるかなあ。と心配になったけれど、その時には、まさか「米騒動」が始まるなんて思いもしなかった。おかげ様で買わずにすんでいる。売るほどはないけれど。

いつも行くスーパーには、おいしそうな弁当が並んでいて、つい手が出てしまう時もある。お値段はそんなにあがってはいないけれど、ごはんの量が減っている。おかずも少なくなった。私にはちょうどいいけれど、食べざかりの人たちには、もの足りないのではないだろうか。

「イシュー」、ホームレス支援の雑誌を購読している事は、以前書いた。販売者のAさんは、都庁の近くで行われる「お弁当配布」の日に、ついでに私の雑誌を持って来てくれる。

ある日、指定の時間に行くと、彼はすでに来ていて、もらったばかりの品を見ながら、「少なくなったなあ」とぼやいていた。ぼやきながらも私に「おにぎり」をくれた。それはアルファ米でお湯を入れてしばらくすると「おにぎり」が出来上がるという物だった。普通のお弁当だと、消味期限が早いけれど、アルファ米だと長期保存も可能だ。その貴重な食べ物をおすそわけして下さったのだ。

座りこんだ私に「チョコっと食べる？」とチョコレートまで差し出した。ミニピクニックのようにに、二人は口を動かした。

空は青い。風も心地良い。

どこかの国では、あいさつが「ごはん食べた？」なのだと聞いた事がある。

ふと、カンボジアの子供たちの顔が、目にうかんだ。しばらく会っていない。みんな元気かな。

―ねえ、ごはん食べた？

カンボジアの七夕

カンボジアの首都プノンペンで７月11日～13日、「カンボジア日本人材開発センター」（CJCC）で七夕祭りが行われた。在カンボジア日本国大使館、国際交流基金アジアセンターなどが共催した。

CJCCのステージでは、伝統芸能ビデオ上映、三味線演奏、太鼓演奏などが行われた。

（鈴木春男さんのFacebookから）

人気の列車カフェ

７月、プノンペン市内に列車カフェがオープン、市民に好評とのこと。使わなくなった電車を改造し、カフェに転用したもの。プノンペン駅の近くにあるので立ち寄ってみては。

（パンニャさんのFacebookから）

2つの新校舎で授業始まる

今年の２月、「味の素グループ労働組合」の支援で新校舎が完成した「メル小学校」（クラチェ州・生徒数＝389人）、及び３月に「世界の恵まれない地域に小学校を作る会」と石川桂さんの支援で新校舎が完成した「ジーパオ小学校」（コンポンチャム州・生徒数＝235人）では、既に新しい教室で授業が開始、子どもたちの元気なかけ声が教室内に響いていた。

⇦メル小学校

⇦ジーパオ小学校

高等学校を卒業する里子が、今年は10人

「クメール教育里親基金」では、６月末日現在で200人の教育里子に奨学金を支給しているが、昨年は６人が高等学校を卒業、その後は大学に進学したり、進学に備えアルバイトして資金を貯めるなど、様々な道を歩んでいる。

今年も８月中旬頃に高校３年生を対象に卒業試験が行われ、10人の教育里子が受験した。その結果は９月頃に判明、試験の合否に関わらず10月末で高校生活が終わり、新たな進路が待っている。

「クメール教育里親基金」による奨学金支給は原則高校までだが、教育里親のご厚意により大学や専門学校に進む場合に限り、高校卒業後も奨学金を支給している。（支給金額は変わらない）

カンボジアは公私を問わず大学の授業料が比較的安く、本人がアルバイトして勉強を継続することは可能。教育里子の自己実現を、側面からサポートしていきたい。

高校を卒業した里子

本会は在日本カンボジア王国大使館（東京都港区赤坂）と連携し、活動しています

本会の会員状況をお知らせいたします

（2025年６月末日現在）

●教育里親会員	１５９名
●個人会員	５７名
●団体会員	１０団体
●寄付協力者（随時）	３１名
合　計	２５７名

書き損じハガキ・未使用切手・商品券等をお送りくださいませんか

本会では、書き損じハガキ・未使用の切手やビール券やデパートの商品券を集め、活動資金にしております。皆様の家に眠っているものがございましたら、ぜひ、ご協力くださいますよう、よろしくお願い致します。普通郵便で事務局へお送りください。

事務局便り

■６月28日にオンラインで開催された第23回定期総会の中で審議されましたが、紙媒体の会報送付を止め、本会のホームページ閲覧に切り替えてくださる方を再募集することにしました。現在のところ２名の会員のみですが、更なる経費節約にご協力お願いいたします。

■第23回定期総会の資料及び議事録をホームページに掲載しましたので、ご覧になってください。

■次の理事長によるカンボジア訪問は来年１月中旬～２月中旬を予定しています。具体的な日程が決まり次第会報でお知らせしますので、ぜひご参加ください。日本は極寒ですがカンボジアは暑くなく寒くもなく、丁度良い季節です。

■会報（１４１号）を９月中旬頃に発送する予定でしたが、定期総会返信はがきのコメント記入欄に会報への期待が多く寄せられていましたので、１ヶ月前倒しで８月中旬に発送することにしました。年内あと１回発行する予定です。

■猛暑が続いています。熱中症対策を忘れず、日々快適に過ごしましょう。水分、塩分の補給が大切ですね。

活動に参加しませんか

正会員として

■教育里親会員（年額３万円）
子どもたちへ直接払う年額
１万３千５百円（45％）
会の運営に回す年額
１万６千５百円（55％）

■個人会員（年額５千円）

■団体会員（年額１万円）

寄付金

当会の活動に賛同いただける方からの寄付金も受付しております。

＊＊＊＊＊

会費・寄付金の送付は、銀行振込、郵便振替、現金書留で。

【口座名】
21世紀のカンボジアを支援する会

【ゆうちょ銀行】
０１９支店　当座　０１６０９１６

【りそな銀行】
練馬支店　普通　４０９８２３５

●ゆうちょ銀行の自動引き落としをご希望の方は事務局へご連絡ください。

●会員の皆様には、隔月発行する本会の会報「アンコールワット」を発行の都度郵送します。

春さんのカンボジアレポート

～カンボジアとタイ国境で武力衝突～

国境地図

2025年５月28日早朝に、カンボジアとタイ国境で武力衝突がありました。場所はカンボジアのプレアビヒア州チョアムクサン地区モロコットコミューンのテチョモロコット村。以前から領有問題がある場所です。

双方ともに相手側が先に発砲と非難の応酬です。これにより両国は軍隊を国境へ集結させましたが、双方とも平和的解決を主張。カンボジアはこれを機に、以前から係争の４ヶ所（モムバイ地域、ターモアン・トム寺院、ターモアン・トーイ寺院、タークロバイ寺院）をハーグの国際司法裁判所に付託することを決定しました。

両国は一時全ての国境ゲートを閉鎖しましたが、現在は一部を時間短縮で開放しています。

今回の銃撃戦でカンボジア兵士１名が戦死し、カンボジアは国を上げて盛大な葬儀を行いました。政府は国民に軍への支援と一致団結を呼び掛けています。これを機にと、解散させられた救国党のサム・ランシー元党首は、亡命先から政府の対応に非難声明を出しています。

（写真出典：Khmer Times）　理事・会員　鈴木春男（カンボジア・シェムリアップ在住）

カンボジアミニミニNEWS

ネット記事から最近のカンボジア情報をお知らせします。

カンボジア縫製業界、工場の15％が操業停止リスク

米国による関税措置の影響を受け、カンボジアの縫製業界では先行き不透明感が強まっている。

「ベターファクトリーズ・カンボジア」（BFC）が実施した調査によれば、全体の15％に当たる縫製工場が数週間分の受注しか抱えておらず、操業停止や閉鎖のリスクに直面していることが判明した。

調査結果によれば、44％の工場は原材料の在庫や既存の注文により、少なくとも３カ月の操業が可能と見込まれているが、全体の15％の工場では受注が全くない状態となっている。

デング熱患者8000人超、主に子どもに影響

カンボジア保健当局は、２０２５年上半期に国内で報告されたデング熱の症例が８０００件を超えたと発表した。

前年同期を比較して約20％の増加となっており、死亡例も確認されているが、具体的な死者数は明らかにされていない。

感染者は首都プノンペン、カンダル州、シェムリアップ州、コンポントム州、トゥボンクモム州に集中しており、年齢層は主に５歳から15歳の子どもが中心である。

カンボジア縫製労働者、生活苦と治安悪化を訴え

カンボジアの首都プノンペンにおいて、縫製工場で働く労働者らが生活費の高騰や治安の悪化により困窮している現状を政府に訴えた。

６月28日に開催された労働フォーラムには約１５０人が参加、労働者、市民団体、関係省庁の代表が意見を交わした。

プノンペンの縫製労働者は「収入が変わらないにもかかわらず、すべての物価が上がっており、日々の暮らしが成り立たない」と現状を説明した。

カンボジアと日本、航空路線に関する覚書を締結

カンボジア民間航空事務局と日本の国土交通省は、両国間における航空路線運航に関する覚書を締結した。

今回の合意に基づき、カンボジアの国営航空会社である「エア・カンボジア」は、中国を経由して大阪及び東京への定期便を運航する計画を進めている。

両国間を結ぶ直行便はANAにより運航されていたが、新型コロナウイルスの影響により運航は休止されたままである。

カンボジアの外国人観光客、5カ月で295万人に到達

カンボジア人民党（CPP）の報告によれば、２０２５年１月から５月にかけてカンボジアを訪れた外国人観光客が約２９５万人に達し、前年同期比で11.7％の増加を記録した。

国内観光客も５割増の１３１６万人となり、観光業の本格的な回復を示す結果となった。

不法滞在・就労の外国人、上半期で6000人超を国外退去処分

カンボジア移民総局は２０２５年上半期において、１２００人を外国人の入国を拒否し、約６０００人を国外退去処分したことを明らかにした。

不法入国やオンライン詐欺、不法就労の増加を背景に、入国管理体制の厳格化が進められている。

国外退去処分を受けた外国人の多くは、不法入国、滞在期限の超過、無許可での就労などが主な理由とされる。

懐かしき1枚

16年前の2009年３月８日、児童養護施設「夢ホーム」（コンポンスプー州）の開園式が行われました。前列の子どもたちは皆自立し、カンボジアの社会で活躍しています。

教育里親会員　入会申込書

年　月　日

氏名	ふりがな	生年月日	年　月　日
住所	〒　(TEL)		
備考	1.サポートしてくださる子どもの人数　[　　]人 2.サポートしてくださる子どもの性別　①男の子　②女の子　③どちらでも 3.その他　[具体的に　　]		

＊入会してくださる方は所定の事項をご記入のうえ、本会事務局までお送りください。